

長野県総合計画策定にかかる総合計画審議会委員としての提言

須坂市長 三木正夫

提言

- ・過去の単なるトレンド分析は、過去の焼き直しになってしまい、イノベーションは期待できない。何が、長野県にとって、課題か、必要かの原点から考える。
- ・分析を行う場合には、我が国における長野県の位置づけ、また、県内の地域分析も重要と考える。
- ・土地の有効利用は、長野県内だけで考えるのではなく、全国的な視野で検討する。圏央道等の首都圏の土地の高度利用は参考になる（長野県内のみを考えていると国内の地域間競争に勝てない。県民の生活圏域は行政区域とは異なっている。県外の大型モールに長野県民が行っていることを考慮する必要がある）。大型商業施設は、単なる商業施設ではなく、「大型複合生活施設（観光、交流、生涯学習、高齢者・障がい者対応、直売所等の地元振興等）」となっている。
- ・農業振興の観点からは、単に農地を守るだけではなく、現実を踏まえたうえの対策が必要である。例えば、大型複合生活施設の雇用による兼業の可能性、販路の拡大等工夫をすることにより、農地を転用しても農業振興になるようにできる。
- ・部単位での業務はタテ割り行政にある程度ならざるを得ないが、総合計画の策定は縦割り行政を打破する好機でもある。
- ・県のみで策定するのではなく、県民、市町村が自分事と考える総合計画であってほしい。そのため、少なくとも、市町村に密接な課題（例 集落の維持、公共交通機関）は、県と市町村とで、協議をして策定されたい。総合計画を策定する過程が、市町村職員の資質向上、人的ネットワーク形成の機会ともなるし、県職員が現場を知る機会となる。
- ・県全域で考える課題と地域振興局単位で考える課題がある。地域振興局に関する課題は、地域振興局の存在意義を示す好機である。
- ・ものづくり産業戦略プランのプロジェクトは、地域の特色をいかしているもので、活用してほしい。
- ・スピード感、連携が重要である。
- ・東京オリンピック・パラリンピック、ラグビーワールドカップの観客の宿泊地として、長野県をPRする。

- ・果物を中心とした活性化について、「長野県おいしいフード（風土）大使」  
鎧塚俊彦さんの協力をいただく。

（理由）

鎧塚俊彦さんは、中国北京にスイーツの店を出店したり、2016年にはパリの「サロン・ドゥ・ショコラ」に出品（ショコラとともにシャインマスカットなど日本のフルーツも出品）するなどグローバルな視点でスイーツを活用した産業振興、地域振興をされている。また、他自治体でも、スイーツを活用した地域づくりを鎧塚俊彦さんに依頼し、行っている。さらに、鎧塚俊彦さんは低糖質のスイーツにも取り組んでおり、健康長寿長野の方向ともマッチしている。

## 「資料1 計画策定の基本的視点」に対する意見

項目	追加意見
先行	<ul style="list-style-type: none"> <li>固定概念・規制概念の打破 例 人口推計等の単なるトレンドは先行性にならない。</li> </ul>
協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民、市町村が県に要望、依存するのではなく自分事としてそれぞれ考える。 例 地方創生推進交付金を地域振興局と市町村で連携して申請。課題を協働で検討する。← 県は現場を知る機会になり、市町村は他の自治体のことを知り、視野が広がる。</li> </ul>
現場重視、地域重視	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題発見解決型行政</li> </ul>
ボーダレス	<ul style="list-style-type: none"> <li>(「多様性の尊重」に関連して) 例 地域の課題・個性の把握</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>人づくり・教育と産業振興を基本にされたい。</li> </ul>

## 「資料2 現状と課題」に対する意見

項目	追加意見
1 人口減少	(1)急激な人口減少 <b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>産科医師不足により、地域で出産ができない事が県民の不安になっている。</li> </ul> <b>【対応の方向性】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>安心して子どもを産むことができる地域づくりの整備(産科医師が不在となった地域でもお産ができる体制を構築する)</li> <li>具体的課題を把握のうえでの解決策の検討</li> <li>中山間地域における小さな拠点構想の実現(高知県モデル)</li> </ul>
	(2)少子化の進展 <b>【対応の方向性】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)であげた「産科医師確保等」はこの項目にも関係する。</li> </ul>
	(3)東京圏への人口流出 <b>【対応の方向性】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>雇用の場の確保が最重要</li> <li>若い世代にとって魅力ある生活の場の確保(就労や学びの場に加え)</li> <li>長野県版デュアルシステム(須坂方式)による、学校と企業が一緒になった職業教育</li> <li>企業の魅力を知り、働くことの意義を学び、生きた技術が身に付く⇒地元への就職</li> <li>大型商業施設やレジャー施設の整備</li> <li>企業誘致のための産業団地計画など、高度の土地利用への転換を図る。(圏央道等首都圏の土地利用と比較して低い)</li> </ul>
	(4)重みを増す協働 <b>【対応の方向性】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>幼少からのコミュニティ意識の醸成</li> </ul>
2 成熟した経済・社会	(1)低成長の長期化 <b>【対応の方向性】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>土地の高度利用化 新たな企業誘致(進出)に向けた受入整備(新産業団地の造成など)。地域の実情に応じた弾力的な運用(農地法などの規制への柔軟な対応)</li> <li>(「県内産業が必要とする人材の確保」に関連して) 長野県版デュアルシステム(須坂方式)による、学校と企業が一緒になった職業教育により人材を養成</li> <li>産業プロデューサー、コーディネーターの養成</li> <li>県試験研究機関の充実、民間との連携</li> </ul>

項 目		追加工見
2 成熟した経済・社会	(2) 貧困・格差の拡大	<b>【対応の方向性】</b> ・ 入学などにおけるランドセルの共同購入など知恵を出す。滋賀県では全県的に安価なランドセルを共同で購入しているとのこと
	(4) 災害発生リスクの高まり	<b>【課題】</b> ・ 台風接近時に県河川砂防情報ステーションに接続が集中して、つながりづらい。 <b>【対応の方向性】</b> ・ 県及び市町村職員の防災意識の醸成 ・ 県民の自助の意識の醸成 ・ 学校教育での防災意識の醸成 例 釜石の奇跡 ・ 県と市町村の災害協定の強化 ・ 自衛官(退官者も含む)の災害ノウハウの活用
	(6) 高齢化、人生100年時代へ	<b>【対応の方向性】</b> ・ 高齢者が経験や知識を社会貢献に活かせる仕組みづくり 例 就業の場の確保。シルバー人材センターとの連携。 社会貢献が健康長寿につながるという実証研究がある。 ・ 長期的視野にたった健康長寿長野県を持続するための学校教育、家庭教育
3	技術革新の進展	<b>【対応の方向性】</b> ・ 産学官金連携によるイノベーション創出、人材育成 ・ 中学生、高校生からの先端技術への興味の醸成 例 須坂市の遠藤守信信州大学特別教授プロデュース「クリスマスレクチャー」 ・ 今ある産業の進化・連携 例 発酵食品
4 ネットワークの広がり	(1) グローバル化	<b>【対応の方向性】</b> ・ (「観光や就労で訪日する外国人の受入環境整備」に関連して) 昇龍道と同様な広域観光レートを東北信にも設置。候補: 上信越ふるさと街道(事務局 長野商工会議所)。 二次交通としてのレンタカーの活用 ・ (「アジアをはじめとする新興国等への市場展開」の例示として) 例 東南アジア向けの果樹を中心とした農産物の販路拡大 グローバルGAP(ギャップ)に対応した新たな農業展開に対する支援 ・ 中学生、高校生の訪日学習旅行の一層の受け入れ
	(2) 交通ネットワーク	<b>【対応の方向性】</b> ・ (「人口減少や高齢化に対応した地域公共交通の確保」に関連して) 地域公共交通の確保のため、県と市町村との協議会設置 ・ 既存高速交通網、特に高速道のストック効果の活用 ・ 国内旅行者向けにレンタカー、特に軽自動車の活用
	(3) 情報通信ネットワーク	<b>【対応の方向性】</b> ・ (「産業、働き方、生活サービスへの情報通信ネットワークの活用」に関連して) サテライトオフィスの設置